

平成29年度武蔵村山市立第八小学校経営方針

学校名 武蔵村山市立第八小学校 校長名 牧 一彦

公印

教育目標

人権尊重の基盤に立ち、創意に満ちた教育活動の推進に総力をあげ、人間性豊かで思いやりがあり、21世紀を逞しく生き抜く国際感覚豊かな子供を育てる。

- ◎考える子 きたえよう頭を
- 思いやりのある子 みがこう心を
- やりとげる子 つよくしよう心と体を

行動目標 わけをそえて話すことができる子

1 目指す特色ある学校像

自分大好き 友達大好き 学校大好き 八小の子 (目指す児童像)

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校 (目指す学校像)

苦楽を共にし、子供のために力を尽くす チーム八小 (目指す教師像)

- ① 地域を愛し、地域に開かれ、地域と共に歩む学校 (コミュニティ・スクール)
- ② 午前5時間制により、元気、根気、本気、勇気(4つの気)を育む活力のある学校
- ③ 礼儀やマナーを身に付け、明るい挨拶やそっと会釈のできる温かみのある学校
- ④ 「楽しい授業」「わかる・できる授業」「考える授業」を通し、確かな学力を育てる教育力のある学校
- ⑤ 子供が学校を誇りに思い、保護者・地域に愛され、信頼される学校

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- 礼儀作法を重点とする新教科「徳育科」の開発を通して、児童の心の教育の充実を図る。(平成26～29年度)
- 午前5時間制及びCSにより、生み出される時間及び人的支援を、児童の学力の向上及び人間力の育成に、最大限に生かす方法を模索し、実践に結び付ける。
- 若手教師の指導力向上のため、「人材育成部」を立ち上げ、組織的な育成を図る。

(2) 本年度の目標

- ① 全教育活動を徳育科の実践の場と捉え、校内外での「挨拶の励行」を推進する。また、授業規律「教室の中で話しているのは一人」の更なる徹底を図る。
- ② 新教科「徳育科」の(1)指導法、(2)評価方法、(3)指導資料の開発を研究の柱とし、これまでの研究をまとめ、2月17日(土)に全国に向けて発表する。併せて「一人一研究」及び校内OJTを一層充実させ、学校の教育力向上を図る。
- ③ 知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の向上のために、(1)「八小授業スタンダード」(課題解決型授業)の推進、(2)習熟タイムの習熟度別での試行実施(3)基礎学力向上システム(暗誦、計算)の定着、(4)なるほど塾・八小特進教室の改善・充実、(5)算数科等における個別指導の充実を推進する。(6)若手教員校内研修のシステム化を図り、指導力の向上と授業改善を一層推進する。
- ④ 地域・家庭との連携を深め、児童の健全育成、安全対策の推進を図る。

3 目標達成上の課題

- ① 一人一人の教員の特性や専門性を生かした授業改善と指導力向上
- ② 学年主任や各組織の長を任せられる中核的教員及び、若手教員の組織的育成
- ③ 児童の生活上・学力上・健康上の課題の早期発見と支援体制の充実
- ④ 学力向上支援員、ふれっチャ指導者等、指導者の確保とそれにかかる報償費等の予算確保
- ⑤ 「八小授業スタンダード」の浸透と「若手教員育成」に向けたシステムの構築

4 経営の具体策

- (1) 「学力向上」、「人権感覚・国際感覚の醸成」、「体力の向上」を図る。また、「礼儀・マナーの励行」を推進する。併せて、校内の研修体制を充実させ「教員の指導力向上」を図る。
 - ① 行動目標「わけをそえて話す」と「八小授業スタンダード」、「授業改善プラン」に基づく授業改善、「小中一貫カリキュラム」「東京ミニマム」「新聞」を有効活用し、指導力の向上を図る。
 - ② 若手教員研修指導教官を中心として「人材育成部」を立ち上げ、組織的に指導力育成を図る。
 - ③ 徳育科の研究授業は年6回行う。また、各教員の専門性を生かした「一人一研究」と「五中校区スタンダード」に関わる授業を少なくとも1本ずつ実施する。
 - ④ 少人数算数は、習熟度別指導(1学級2展開・2学級3展開)を基本に3年生以上で実施する。
 - ⑤ 新教科「徳育科」を核に、全教育活動で人権感覚や思いやりの心を育てる。併せていじめ対策学校方針に基づき、いじめのない学校を、また教職員による体罰のない学校を目指す。
 - ⑥ 保健指導の充実、生活リズムカード等を通して「早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き」を徹底する。
 - ⑦ 学級全員遊び、異学年の兄弟学級遊び(百人一首等)や体力向上を目指した活動(八小体操・持久走・なわとび等)の年間計画を立て、確実に実施し、人間関係づくりや体力の向上を図る。
 - ⑧ 地域の諸機関と連携し、福祉に関する授業や交流活動を計画・実施する。
 - ⑨ 2年生以上でサマースクールを、全学年で習熟タイム(週3回)を、4年生以上で八小なるほど塾を、5・6年生で八小特進教室を実施し、基礎・基本の確実な定着と思考力の育成を図る。また、1年生の「緑り上がり」「緑り下がり」、2年生の「詩の暗誦」「九九」について、保護者支援を含む年間計画を作成して確実に実施するなど、学力向上に向けた改善を推進する。
 - ⑩ 読書活動の活性化に向けた指導方法を工夫し、活字に親しむ児童の拡大を図る。
 - ⑪ 以下の活動を課外クラブと位置付け、「体力の向上」「人間力の醸成」を図るとともに大会出場等に備える。(ドッジボール、相撲、サッカー、縄跳び、百人一首、吹奏楽、駅伝、バトン)
- (2) 教育課題を常に明確にし、主幹・主任教諭を中心として、組織的・計画的に課題解決を図る。また、外部機関との連携を深め、ショートスパンによるPDCAの実施に努める。
 - ① 特別支援教育の推進を図り、児童に関する諸問題(いじめ、不登校、学力不振等)を生活指導夕会や生活指導全体会、定期的な特別支援校内委員会で共通理解し、早期発見・対応に努める。
 - ② 学習・教育ボランティアを年間60日以上招き、教育活動の活性化・強化を図る。
 - ③ OJT夕会を月2回計画的に実施し、意図的・計画的に若手教員の育成を図る。
 - ④ 「コミュニティ推進部」の役割を明確にし、地域運営学校としての円滑な運営を目指す。
 - ⑤ 共同事務の実施及び、校務支援部の活性化を図り、学校経営全般に係わる業務を組織的に行う。
- (3) 保護者、教育支援ボランティアを積極的に活用し、協同的活動を推進する。
 - ① 「ふれっチャ・クラブ」(年18回実施)の活性化を図り、社会性と人間性を育てると同時に、挨拶の大切さや礼儀正しさを学ばせ、コミュニケーション能力を培う。3年生は全員参加とする。
 - ② 伝統・文化の教育を推進し、絵手紙や琴を広める。また、ワコイン・スクール・プロジェクトを推進し、役に立つ人になろうとする心や、将来を見据えた志を育てるとともに、全児童の国際感覚を育む。
 - ③ 読み聞かせや絵手紙教室、サマースクール、低学年の算数習熟や詩の暗誦等、保護者、外部団体やボランティアとの連携を図りながら推進する。
 - ④ 地域行事・活動等に、子供と共に積極的に参加し、地域との連携・協力関係を深める。
 - ⑤ 五中・一中校区の小中学校との連携を深め、「9年間を見通した小中一貫教育の推進」を図る。また、青少対、安全ボランティア、PTAとの連携を深め、登下校や地域での安全指導を強化する。

5 年度末のチェックポイント

- ① 学校評価(自己評価、児童・保護者による評価、学校関係者評価)での年次比較で3%の向上
- ② 週の指導計画を通しての指導、授業観察チェックリストの活用による授業力の向上
- ③ 国・都・市実施の学力調査、各学級の通知表評価、新体力テスト、漢字検定の結果の向上